



西村証券

チーフストラテジスト  
門司総一郎の

# ウィークリーレポート

2021年  
4月30日  
発行

第86回

「宇宙開発と株式市場」

～新たなフロンティアで長期上昇へ～

## 初めに

昨年12月18日付けの当レポート、2021年のびっくり10大予想では予想の1つとして「21世紀の新市場は宇宙・宇宙関連株が上昇」を挙げました。それからまだ4ヶ月ですが、宇宙開発は加速、関連株も注目を集めています。今回は宇宙開発の状況やそれが市場に及ぼす影響などについてお話しします。

## 最近の宇宙開発状況

宇宙開発という言葉から米国のアポロ計画のような国家プロジェクトを思い浮かべる方もいらっしゃると思います。もちろん日本のはやぶさプロジェクトのように国が主導あるいは支援する宇宙開発は今でもありますが、最近では民間企業によるビジネスとしての宇宙開発が活況を呈しています。

## 民間の宇宙ビジネス

民間の代表的な宇宙関連ビジネスがロケットです。以前、それまで出来なかったロケットのリサイクルが可能になったことによりコストが低下、ロケットビジネスが活気づいた、と聞いたことがあります。日本では三菱重工がロケットを手掛けており、中国メーカーなどと競っています。またキャノン電子も小型衛星の分野に進出しています。ベンチャー企業の多いことがロケットビジネスの特徴です。1月18日付日本経済新聞電子版にはそうしたベンチャー企業として、シンスペクティブやアクセルスペースの名前が挙がっています。

## 宇宙港の整備が課題

宇宙に行くには行き帰りのロケットが使用する宇宙港が欠かせません。こうした港の整備や宇宙旅行に関するルールの整備などが今後の課題です。

## 宇宙開発と株式市場

宇宙開発の進展は株式市場にはプラスです。まずロケットや宇宙ステーションのようなインフラの整備、また将来的には宇宙旅行などの新サービスが景気を押し上げ株式市場にも好材料、と見ています。

## アルテミス計画

アルテミス計画はNASAが将来の火星有人探査を前提に、月に拠点を作るプロジェクトです。月に到達すればアポロ計画以来52年ぶりです。このように米国では宇宙開発の機運が高まっていますが、他の国も今後より力を入れてくると思います。今後の宇宙開発競争に注目です。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.  
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)  
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号  
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業  
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。